

## 平成30年度第2回小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成30年11月2日(金) 午後1時30分～3時40分
- 2 場 所 生涯学習センターけやき 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 委 員 加藤憲一(会長)、橋本輝夫(副会長)、荒井範郎、石井政道、石幡保雄、磯田待子、稲毛真弓、大場得道、川瀬貴美子、小林俊之、下田成一、杉本聡、高橋正則、星賢一、眞壁誠一、松嶋由紀子
  - (2) 事務局 北村子ども青少年部長、中津川子ども青少年部副部長、吉野青少年課長、笹井青少年課副課長、秋澤青少年課副課長、淵上青少年課副課長、福田主査  
橋本主任
- 4 議 事
  - (1) 副会長の選出について
  - (2) 小田原市青少年善行賞の選考【非公開】
  - (3) 優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考【非公開】
  - (4) 青少年と育成者のつどいについて
  - (5) 平成30年度上半期青少年関係事業結果報告
  - (6) 意見交換
- 5 会議の概要
  - (1) 副会長の選出について  
橋本委員が再選される
  - (2) 小田原市青少年善行賞の選考  
非公開
  - (3) 優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考  
非公開
  - (4) 青少年と育成者のつどいについて  
事務局の案のとおり実施する。
  - (5) 平成30年度上半期青少年関係事業結果報告

下田委員

スクールコミュニティ事業について、青少年課長には相談させていたただいたが、桜井地区では「桜井コミュニティ通信」を最小の自治会の単位に行き渡るように520部発行している。

しかし、最近、自治会員からお子さんやお孫さんが学校に関係のな

おり、自分達は読んでも意味がないという声が上がっている。

また、城北中学校、桜井小学校、報徳小学校が、形は少し違うが内容が同じものを発信している。この情報紙がうまく機能していれば良いのだが、自治会の皆さんからは本当に必要な情報紙なのかという声も上がっており、今後検討をお願いしたい。

会 長

地域の中で子ども達を育てようという考えでこの事業を始めており、お子さんやお孫さんがいる家庭もいない家庭も、地域の中で子ども達がどのような活動をしているのかを自治会構成員に知っていただきたい。

また、御家族にお子さんやお孫さんがいなくても、地域の他の団体のメンバーであったりすれば、その地域のお子さんたちと触れ合う機会はあると思う。地域全体で子どもの情報を共有していくべきではないかという理念に基づきこの事業は行っている。

下田委員

青少年課長とはいろいろ議論はしたが、小学校、中学校で発行されているものも全戸で回覧できるようになっている。重複している情報も多い。「コミュニティ通信」はカレンダー形式だが、小中学校から出されているものは記事も載せてあり読めば内容が理解できるが、「コミュニティ通信」は、ただ、「何月何日に何があります」だけなので、お子さんやお孫さんがいない世帯では理解しにくい。素晴らしい事業だとは思っているので、中身や配布の方法などを検討していただきたい。

発信者の情報がすべて伝わるような形にできればよいと思うが、残念ながら今は「何故回覧するのか」と訊かれると私もその意味を説明はするのだが「うちは関係ない」と言われてしまうとつらいところもあるので検討をお願いしたい。

会 長

地域によってはその紙面を利用して、子どもにまつわる他のトピックスや裏面に地域情報を入れたり、派生的に色々な記事を載せて配っている。定着している地域もあるので、作り手の方が少しずつ取り組みや視野を広げていけば接点も広がってくるのではないかと。

吉野課長

下田委員が仰るように御意見をいただいております、桜井地区で情報紙を作っている方と話をさせていただいております。桜井地区のまちづくり委員会で今年から地域のイベントをカレンダー方式で皆さんにお知らせするような情報紙も作られているということもあり、別の情報、例えば子どもにまつわるような情報を文章や写真を載せることで情報提

い世帯が増えて

いかという提案をさせていただいているところである。

いずれにしても地域で同じような情報があるという御意見を伺ったので、発行されている桜井地区の団体の方々と話をさせていただいて、より良いあり方があるのではないかとということでお話をさせていただきたい。

下田委員

まちづくり委員会の新聞もコミュニティの情報紙も、情報を細かく載せると読めなくなってしまう。なので、大きな行事については、学校関係の行事として「コミュニティ通信」に載せてある。細かな部分はまちづくり委員会の新聞に載せているが情報が重複してしまう。せっかく皆さん頑張って作っていただいているので、皆さん喜んで「これは良いものができた」と見ていただけるものを目指さなければいけないので、よろしくお願ひしたい。

橋本副会長

青少年相談業務で、232件となっているが、その内訳を知りたい。

吉野課長

現在、手元に資料がないので、今年度の相談の傾向について説明させていただく。青少年相談というと非行のイメージが強いと思うが、最近ではひきこもりや無業者いわゆるニート、仕事に就きたいが続かないとか、今までひきこもっていたが、社会に出てみたいと思った方々に対し、どうしたら仕事に就けるかというような相談が多い。相談員が、関係機関、例えばハローワークや若者サポートステーションといった就労支援をしている機関などにつなげるような相談が多くなっている。

また、高校生などが不登校気味になってしまったが、どうしたら良いかといった相談を保護者から受けることもある。

会 長

相談については、改めて資料を送付させる。

こういった諸事業は皆さん諸団体の協力で運営できているので、その内容の充実度については、下田委員や橋本副会長からの話のように、皆さんからの御意見等を踏まえ、より充実したものにしていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

それでは、報告事項は以上とさせていただきます。

供できるのではな

(6) 意見交換

会 長

それでは、会議終了までの時間、意見交換の場を設けたい。

今年度の青少年問題協議会では、2022年の成人年齢引き下げを見据えて、「青少年の健全育成において、将来に向け今何に焦点を当てるべきか」というテーマを設定し、前回は皆さまから青少年を取り巻く環境、現状や課題について御意見を様々いただき大変有意義であった。

今日は、それらの意見から見えてきた3つの課題（ネット・SNS、家庭環境等、居場所作り等）に焦点を当て、皆さんが所属する団体や機関に、それぞれにおいて今から何をすべきか、またどう連携してどう取り組んでいくのかといった視点で意見交換したいと思っている。

皆さんには、事前に今日の主旨を送付し発言の準備をお願いしているので、参加いただいている団体の分野ごとに分けて順番にお話を伺っていきたい。最初に学校等の教育現場の皆さん方、続いて青少年の育成団体の方、また、地域の皆さん方、最後に行政機関等ということで、お願いしたい。それでは、最初に教育現場からということで石井委員からよろしいか。

石井委員

非常に難しい問題だというのが正直な感想である。

学校は9割方正しいことばかり教える。あまり悪いことは教えない。しかし、いろいろなトラブル、いろんな情報が入ってくる中で、子ども達をどう育てるのかということに尽きる。

学校ができることは、消極的ではあるが呼び掛けと情に訴えること。「こうしたら罰金を取る」というような罰則は学校現場ではできないので、前向きに「ああしていこうね」「こうしていこうね」という言葉をかけ続けることを、これからも継続してことが必要であると思う。

SNSについては、前回も話したが教室を開いたりするのは授業数との関係ともあるので、年2～3回程度しかできないが、継続してやることも大切だと感じている。

家庭の問題は子ども達に影響を与えてしまうが、なかなか教師が家庭に入り込むのは難しい。地域には入っていくチャンスがあるので協力してもらっている。民生委員をお願いすることも多いが、見回り活動をしているのがありがたい。居所不明などっていくチャンスがあるので協力してもらっている。民生委員をお願いすることも多いが、見回り活動をしているのがありがたい。居所不明などの生徒が出てくるので、「自宅の様子はどうですか」と聞くと「洗濯物が干してあった、居ると思いますよ。」とか「ジロジロ見るわけにはいかないが、子ども

ので居ると思う。」「自転車が放置されているのでどうなのでしょうかね」というように地域の方との連携が、学校で子ども達を守るというか、地域と子ども達の間に入ることで地域の力を活用させてもらっている。

会 長

テーマが大きいので絞りにくいとは思いますが、次に稲毛委員よろしいか。

稲毛委員

高等学校では課題を見つけて自分達で解決していくという教育をしているが、それだけでは18歳成人には遅いであろうということで、小中学生にも政治的教養を育む教育という、身近な話題や地域の話題に対して自分でどのように解決したら良いのか、人の意見を聞いてどのように解決したら良いのかという取り組みを進めている。

平成29年度から始まり、今年度は千代中学校で取り組んでもらっている。教員から教えてもらうだけでなく、何か問題が起きた時に自分達でどう解決したらよいのか、どのように考えていけば解決していくのかという教育を始めたところである。

今までは上から押しさえつけるようなところも多かったと思うが、自分達で住みやすい環境を作ったり、問題に対してどう考えていくかという手立てを講じ始めているところである。学校も地域も変わらなければいけない。保護者に向けても啓発していかなければならないと考えている。

会 長

政治的教養については、授業の一環として行うのか。

稲毛委員

社会科でも総合的学習でも構わないが、ある課題に対して問題点を見つけてどのように解決したらよいかを自分達で考えていく、合意形成を作っていくという課題解決の学習を始めている。

会 長

それでは、次に松嶋委員よろしいか。

松嶋委員

中3の娘がいるが、その友達の家庭が、きょうだいが多く両親も遅くまで仕事をしているため、下の子の世話や家事全般をその友達が任されている。十分に勉強する時間が取れないので、家事の負担を減らすように母親に手紙を書いたと聞かされた。そういう環境にいる子どもや、貧困やネグレクトなど問題を抱えている子どもの声を聞いて支援をしていくためには、居場所づくりが重要だと思う。

の服が干してある

以前聞いたことがあるが、横浜総合高校では、2年前から週に1回、昼から夕方まで空き教室を利用して、カフェをオープンし居場所として開放しているとのこと。運営はNPO法人が担当しているが、生徒同士の交流や自立に向けたキャリア支援などを目的として、食事の他に企業から寄付されたお菓子やジュースを無料で提供している。スタッフはボランティアの大学生やスクールカウンセラーが参加している。年齢が近い大学生と交流することで、次第に打ち解けて進路や家庭の悩みを相談するケースが増えており、内容によっては教員に報告したり、必要に応じて専門機関に連絡するケースが増えている。

中学校から不登校だったり、対人関係が苦手な保健室登校の常連だったりする生徒が多かったが、カフェがある日は保健室の利用者が減ったり実績を上げているようである。問題を抱えている子どもは誰かに話を聞いてもらいたいと思っているが、このような居場所によって、一人でも多くの子ども達が救われ、将来に希望を持てるようになってほしいと思った。

会長

次に青少年育成団体の方に意見をお聞きしたい。眞壁委員よろしいか。

眞壁委員

10年前はパトロールすると空き地や公園で生徒がたむろしていたが、今はほとんどいない。それはスマホが普及したためと思われる。私も中3の子がいるが、部活や塾で帰りは遅いが、帰ってからスマホをいじることが多い。スマホは新しい道具なので、これからSNS等の問題は今後落ち着いてくるのではないか。

子どもの居場所づくりの点では、情報紙に子ども達が参加できる行事に特化して載せている。山王地区は子ども会が2つ消滅しているので、一部の保護者が復活させようと子どもや保護者を集めてイベントを開催し、それをまちづくり委員会や育成会がバックアップし盛り上がり始めている。

会長

紙面づくりに関わっていただいているか。

眞壁委員

昨年話をいただいて、先行している地区の紙面を見せてもらったが、カレンダー形式だった。山王地区はシンプルに作成し評判も良い。まだ2回しか発行していないが見てもらえるようなものを作りたい。

情報発信されて、地域の皆さんがサポートしている体制だが、コン

パクトなコミュニティで顔が見える地域なので、これからも頑張りたい。続けて杉本委員よろしいか。

杉本委員

先の事業報告にあった集中指導で、パトロールを行う前に中学校の先生や専任補導員から提供される情報を、コミュニティ委員会やまちづくり委員会で、育成会がメインとなって地域の課題を解決するために活用できないか考えている。

成人年齢が18歳に引き下げられることで、自覚や責任を養うための支援で、地域リーダー養成講座を開設している。今年度は48名の定員に80名の応募があった。受け皿が少ないのが問題とも考えているので、そのような場も提供できれば大人になるための手段が増えてくるのではないかと思う。参加者は小学校5年生、6年生だが、1年間のプログラムを終了したのち、指導者として地域の様々な世代の人達と交流することで、自覚を持ち将来自分がなりたい大人像を見つけることができるのではないかと思っている。そのような仕組みがもっと増えればと思っている。

会 長

指導者養成講座に応募が増えている要因は何か。

杉本委員

広報の形やプログラムを魅力的なものにすることで増えていると思う。保護者もそのような場を望んでいると思う。

会 長

それでは次に大場委員よろしいか。

大場委員

どこの中学校も昔に比べたらおとなしいが、生徒の数も関係しているのかと思う。最近、中学生の非行で保護観察になるケースはほとんどない。そもそも犯罪の件数も少なく、保護司が保護観察者を担当していない場合もある。

住職をしているが、日曜日の午後3時頃に賽銭と線香代金の窃盗目的に学生が来たことがあるが、今の子ども達何が足りないかというところ「明るく正しく仲良く」という意識がない。それが基本になると思っているので、教育現場から強く訴えていく必要がある。

会 長

それでは次に磯田委員よろしいか。

磯田委員

更生保護女性会では、不幸にして罪を犯してしまった少年の立ち直りに、女性の立場で寄り添うという活動をしている。今年度をもって

小田原の少年院は閉院するが、子ども達と話す中で、違う出会いがあれば彼らはここにはいないのではと感じることがある。

今は少年達を支えるというよりは問題の定義を子育てにシフトし、子育ての支援に力を注いでいる。以前、二宮の心泉学園という養護施設の主任教諭から話を聞いたことがある。一度も誕生日を祝ってもらったことがない子ども達の話聞き、母親が安心して育てていける環境が大事だと思っている。

この活動とは別に、40年近く、小田原の図書館で絵本の読み聞かせを行っている。絵本を読むことだけが良いとは思っていないが、家庭には入っていけないので、そのような環境がなかった子ども達にそのような場所を提供することは大事だと思う。

小田原市では、過去に赤ちゃんの4か月健診時に絵本を渡す「ブックスタート」という事業があったが、財政的な理由で廃止になってからずいぶん経つ。他の自治体では、小学校1年生に上がったときに、好きな本を選んでもらって渡す「セカンドブック」という活動も始まっている。また、母親が本に興味を持って図書館に来た時に、次の本を薦めるという事業を行っている自治体もある。ささやかな活動で、どのくらいの費用が掛かるのか分からないが、赤ちゃんが月に100人生まれるかというくらいだと思うので、是非事業を再開してもらいたい。

会 長

次に地域の方々の意見をお聞きしたい。まずは石幡委員よろしいか。

石幡委員

昨日、3年前に大阪の寝屋川での男女中学生殺害事件の報道があった。そこで元横浜市長の中田氏が意見を述べていた。

条例で夜11時から朝4時まで親は子供を外出させてはいけないことになっているはずだが、親の規範が崩れて見逃している。地域の人もある2人がアーケード街を歩いている姿が防犯カメラに捉えられているのに声掛けもしていない。親が行動を把握したり、地域の人も見かけたら警察に通報すればあのような事件は起きなかったのではないか。

中学生の親の世代は、例えば防災訓練に参加しない、そしてその子どもも参加しない。時代なのかとは思いますが、地域としては関心をもって何かあったら見過ごしてはいけないと思う。こういう事件だけでなく、青少年に関わることは見逃してはいけないと感じた。

会 長

それでは次に下田委員よろしいか。



下田委員

まちづくり委員会にはPTAや育成会、桜井にある団体が参加して色々な活動をしている。子ども達と直接接点はないが、保護者とは色々議論をしている。議論だけで終わってしまい進まないこともあるが、少しずつではあるが進んでいる。

地域の中で、周辺の大井高校や城北工業高校、城北中学校ほか桜井地区のすべての教育機関の校長先生や園長先生、自治会長も含めて意見交換会を年2回実施している。

城北工業高校は県内でコミュニティ高校に指定されており、校長先生も先進的な方で、地域といろいろやりましようと言われている。定時制の生徒が少ないため、昼休み時間に食堂を開放し、近所のお年寄りや生徒が集まり、授業の一環で電気科の生徒がコンセントの作り方などを披露したりしている。

好評ではあるが息切れしてもいけないので、今回は12月に実施予定である。学生も弁当を持参しお年寄りと一緒に食べている。お年寄りも自分の孫と食べることもあまりないので喜んでもらえている。言葉だけでなく実際に触れ合う事業を仕掛けていきたい。

会長

高校の空き教室は考えていなかった。それでは本日から参加の高橋委員よろしいか。

高橋委員

国府津地区の社会福祉協議会の会長をしているが、社会福祉協議会には育成協議会も含めて、全ての団体長が役員になっている。昭和50年代から、体育振興会が中心となり子ども達をどういう位置付けで見ているか考えていた。

小学生は学校外の地域の位置付けとして子ども会がある。高校生は地域で行事をすれば一般人の扱いになる。それでは、中学生は地域の行事でどういう位置付けで引き込むのか。スポーツをやるにしても小学生にも高校生にも入れられない。そこで、夏休みの8月第1土曜日に学校で「少年スポーツ」という事業を行っている。地域の人達と学校とPTAと先生達の交流の場を作った。グランドゴルフやペタンクなどの競技を行っている。スポーツに不得意な子どもでもできるような競技にしている。それがきっかけで、健民祭にはボランティアとして30人くらいの子供達に参加してもらっている。放送係は小学校の放送部員が担当している。

国府津地区は1小学校1中学校なので、地域の方は小さい頃から子どもの顔も知っており、指導者が熱心に指導すれば子どもたちもそれに応えてくれる。

最近の子ども達は大人しく覇気がないと言われるが、防犯活動協議会は以前子ども達が元気だった時代に、コンビニに中学生や先輩の高校生がたむろするようになった頃に発足したことから、地区内のコンビニのオーナーと店長、小田原警察署の生活安全課も同席し情報交換を行ってきている。一時は本店から担当者も来ていた。生活安全課と情報交換もして、各コンビニとも情報共有ができていて非常に良い形となっている。ただし、最近もパトロールは行っているが、たむろしている生徒がいない。他に流れているのかもしれないが他地区の情報も聞いてみたい。

また、平成 15 年ころ、学校評議会が発足した時に、標語としてできたものが「子どもは宝 守ろう育てよう国府津っ子」であり、学校便りにも入れて地域の標語にしようということで現在も続いている。

会 長

確かに健民祭に行くと中学生が活躍している。それでは川瀬委員よろしいか。

川瀬委員

こちら中学生が協力してくれている。敬老会では荷物を持ってお年寄りを席まで案内してくれている。素晴らしい教育だと思う。

また、久里浜病院の先生がスマホ依存症について話をしていた。若者、特に学生の相談が増えている。スマホは時間を決めてやるのが大事である。部活も大事で、部活をしているためスマホを使う時間がない。部活を担当する先生は土日もなく対応されて頭が下がる。

貧困は子どもに罪はない。貧困のため塾にも行けず抜け出せないのが現実だと思う。貧困から抜け出すためには教育が必要で、教育を受けられるような環境が必要である。

会 長

次に行政関係の方。前回もいろいろお話しいただいたが、星委員よろしいか。

星 委 員

児童相談所は、地域の活動の網から漏れている子どもに関わる人が多い。相談件数も上がっているが、虐待の疑いによる通報が極端に増えている。前年度比 4 割アップしている。9 月末で 343 件あり、そのうち小田原市は 212 件。昨年度の小田原市は 278 件なので、半年で 200 件を超えてやはり 4 割アップである。また、家庭に置いておくことが不適切で職権による一時保護も今日現在で 18 人である。ここ何年かで異常な状況である。

内容としては夫婦喧嘩や怒鳴り合いが多いが、子どもを守るために

親とどう関わるかが大事だと思っている。地域の行事に参加する親は意識があって積極的だが、我々が関わる親はそうでない家庭が圧倒的に多い。

昨年、厚生労働省が、「子ども家庭総合支援拠点」という制度を打ち出した。これは、子どもが生まれる前から自立するまでを1か所、ワンストップで対応するという制度である。

小田原市の場合、子育てという意味では、本庁と保健センターで分かれています。連携が今ひとつのところがある。これはそれぞれの場所が離れていることが大きいと思われる。厚生労働省も各自治体に一本化を薦めているが、小田原市はまだ手を挙げていない。既存の制度を合体させればマッチすると思う。

通報があったケースを一貫して関わっていける仕組みが必要で、途中で切れてしまうと再度復活して問題が出た時には、すでに手が付けられないことが良くある。我々児相も含めて連携してやっていかなければいけないと考えている。小さい頃から関わっていかないと、大きくなって問題が出たところで関わっても問題の解決は難しい。

また、最近気になっているのは、高校生が家に居たくないなどの理由で保護を求めることである。中にはネットで知り合った男のところへ行ってしまったケースもある。相手が成人であれば刑法犯で捕まえられるが同年代であれば難しい。保護して帰しても同じことの繰り返しになる。母親とうまくいかないとか、父親から性的な嫌がらせを受けて一時保護するケースも増えている。

小さいところからどう関わっていくか、問題が大きくなってから関わっても解決できない。早い段階で相談につながるなど、適切に関わる仕組みを一層求められていると思う。

会 長

相談にまつわる各所管を物理的にも一本化する準備をしている。妊婦に母子手帳を渡した時から一貫して関わっていけるような仕組み作りの準備をしているので、また御指導願いたい。

それでは次に荒井委員よろしいか。

荒井委員

県西地域2市8町で構成する青少年育成推進協議会の事務局を務めている。具体的には年3～4回の情報交換、キャンペーンの参加等あるが、惰性的な仕事にならないように組織としてできることは何かを考えながらやっていきたい。また、市町が参加する意見交換では、その結果を持ち帰ってもらいより良い関係を築いていきたい。

会 長 各市町の行政、民間とも連携してバックアップしなくてはいけない。最後に小林委員よろしいか。

小林委員 犯罪は少なくなっている。15 年前に別の署の少年係にいた時には、「あの学校のあの番長とこの番長が仲良くしている」、非行少年をターゲットにして「あいつはこの前逮捕されたから最近大人しくしている」、という話ばかりだったが、最近はそういう話は一切無い。表だった犯罪は出てこないが、裏に回った事案は結構多い。

皆さんが活動する中で、青少年に接触したり声掛けしたりすることは有効であるが、警察が関わるのは、そのような声掛けができない子ども達になる。一番悲しかったのは、16 歳の高校生が、親の期待に応えられないということで亡くなった事例である。このような子を救う方法の答えはないが、手軽に相談できるよう、相談の窓口を SNS でできないかと思う。

もう一つは本である。生きる意味みたいなことを易しい言葉で書いてある本、これを手にした子が少しでも前向きな気持ちになってくれたらと思う。また、テレビで芸能人がやっている「命の授業」も良いと思う。

一般的な行事に参加しない子をどうやって拾っていくのが重要である。

会 長 皆さんありがとうございました。もっと突っ込んで聞きたい話がたくさんあったが、時間の都合で一方通行の話しか伺うことができなかった。

皆さんの意見をまとめて具体策にすぐつなげることは難しいが、子ども達との接点で、家庭でやり切れない部分については地域で関わったりと、色々な形で明るいところに出していくということだと思うが、そこにでてこない子ども達が問題になっている。

スタートとしては家庭、両親から始めていくことを意識しなければいけないと思う。加えて、具体的なアイデア、取り組みのマインドをいただいたので、小田原市の青少年育成の施策にできる限り反映していくよう整理をして取り組んでいきたい。

また、本日聞ききれなかった部分については、追加でお訊ねすることがあるかと思うがよろしくお願ひしたい。

最後に、まとめとして橋本副会長お願いします。

橋本副会長 皆さんの意見をお聞きして、青少年の精神の成長を阻害しているの

は、SNSと家庭の問題だと思う。解決するには居場所や友達を作る  
ことである。

以前、週休2日制に移行する前の会議で、「週に2日も学校に来ない  
日があったらどうするのか」という話になった。その当時の小田原市  
の考えが私と同じであった。

「土曜日は地域で子どもを預かって育てましょう」「日曜日は家庭  
や友達と色々なコミュニケーションをしましょう」というのが子ども  
の育成に良いのではという意見があった。今ここで、ネットやSNS、  
家庭の問題や居場所の問題が起きるとは思わなかった。先ほど稲毛委  
員から、これからの学校の授業のあり方で、教わることも大事だが子  
ども達が自分で考えたり判断する、これは2020年の国の教育改革に沿  
ったものだと思うが、私は良い意味で期待している。一方的に先生か  
ら教わるのではなく、子どもが集団で協力したり判断したり考えたり、  
グループで何かを作っていくことはいろいろな人と接触をすることに  
なるので、それがうまくいけば良いと思う。

居場所づくりは、すでにいろいろ地域の中で実施されているが、居  
場所に行かれない子が問題である。そのような子どもをどう引っ張っ  
てくるか。これはひとつの団体や自治会でできることではないので、  
皆さんの意見を参考に色々な団体が連携して取り組んでいく必要があ  
る。

会 長

会議で意見を出しっぱなしではいけないので、本日いただいた御意  
見については行政も取り組んでいくが、皆さんの団体においても御尽  
力をお願いしたい。

最後に議題4その他について、事務局から何かあるか。

事 務 局

今月11月20日に開催する「青少年健全育成講演会」の案内と、個  
人情報を含んだ資料3の持ち帰り禁止を伝えた。

(委員了承)

会 長

以上で青少年問題協議会を閉会とさせていただく。少し時間が超過  
してしまいましたが、長時間に渡りお疲れさまでした。